

[成果情報名] 2004年に山形県で発生したコイヘルペスウイルス病の感染経路の推定
[要 約]

県外のKHV汚染地域からのコイの搬入が感染の起源と推定される。食用と観賞魚の両方を考えると、感染源そのものが複数あったと想定される。さらにそれら複数の感染源から、自然あるいは人為的な感染魚の移動、病原体に汚染された水を介して汚染域が拡大したと推定される。

[部 署] 内水面水産試験場・生産開発部
[連絡先] TEL 0238-38-3214
[成果区分] 政
[キーワード] コイ、コイヘルペスウイルス病、魚類防疫

[背景・ねらい]

コイヘルペスウイルス病の感染経路を推定して、今後の防疫対策や防疫指導に役立てる。

[成果の内容・特徴]

1. 養殖、加工、釣堀等の業者池では、KHVDは6件発生したが、経営体としては4軒である。これら業者池における感染経路は、汚染地域との直接あるいは間接的な原料魚の搬入による接触が原因と推定され、4軒の業者間には接点はないと推定される(表1)。
2. 天然の湖沼河川や用水路においては、6月の南陽市(白竜湖周辺)に始まり、時間の経過とともに最上川を下るように天童市まで汚染域が拡大している。白竜湖周辺における発生は、南陽市の業者との関連も疑われるが、2004年5月以前にすでに不顕性感染魚が放流されていた可能性もある。同様に、庄内地区についても内陸部とは別の感染源がある可能性もある(表2)。
3. 最も発生件数の多い個人池では、同地区の汚染源(業者や公園の池、天然水域)との魚や水を介しての感染が想定される事例もあるが、ほとんどの場合は不明である。多発地区では区内を流れる水路から各個人の池に導水し、また元の水路に排水するという網の目のような飼育形態がとられている。上流部のどこかで観賞魚を含めた新規購入、汚染水域で採捕したコイの搬入、他者による放流、鳥獣による運搬により感染が始まったと考えられる(表3)。
4. 公園や学校等の池や堀については、汚染域からのコイの購入、放流が原因と推定されるものが1件あるが、他の5件は不明である。公園の池や城跡の堀には種々な魚が放流されることがあるので、何らかの機会に感染魚が放流されたものと考えられる(表4)。

[成果の活用面・留意点]

- ・汚染域の拡大を防止するには、独立した給排水の確保とコイの移動に留意する必要がある。

[具体的なデータ]

表1 養殖、加工、釣堀等の業者における
月別・地区別の KHVD 発生件数

	6月	7月	8月	計
南陽市	1			1
米沢市	2			2
尾花沢		2		2
山形市			1	1
計	3	2	1	6

表4 公園や学校等の池や堀における月別・
地区別の KHVD 発生件数(9月は0件)

	6月	7月	8月	10月	計
東根市	1				1
米沢市	1	1			2
八幡町			1		1
白鷹町			1		1
新庄市				1	1
計	2	1	2	1	6

表2 天然の湖沼河川や用水路における月別・地区別の KHVD 発生件数

	6月前	6月後	7月前	7月後	8月	9月	10月	11月	計
南陽市	2	1							3
長井市		2							2
白鷹町		1							1
朝日町			2						2
天童市				1					1
酒田市					3	3			6
羽黒町								1	1
計	2	4	2	1	3	3		1	16

表3 個人池における月別・地区別の KHVD 発生件数

	6月	7月	8月	9月	10月	計
米沢市	1					1
尾花沢		2	1			3
鮭川村		1				1
白鷹町		1	5			6
朝日村		1	3			4
金山町			10	5	1	16
西川町			1			1
天童市			2			2
新庄市			1		2	3
山形市			3	1		4
計	1	5	26	6	3	41

[その他]

研究課題名：増養殖技術指導

予算区分：県単

研究期間：平成16年度(平成15～19年)

研究担当者：茂木省三、佐藤年彦、高橋伸明

発表論文等：